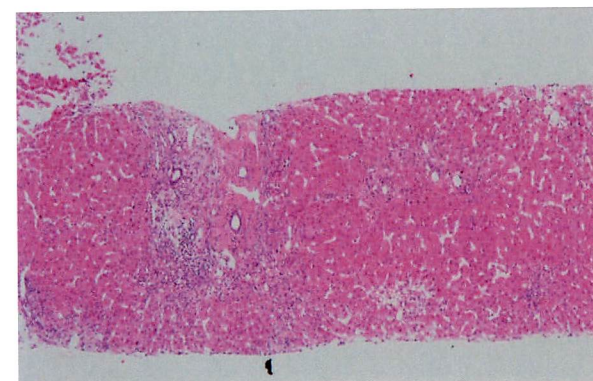


- 1 閉塞性肥大型心筋症について正しいのはどれか。
- 左室駆出率の低下を認める。
 - 左室拡張末期容積が増加する。
 - 期外収縮出現後の収縮期雑音が増強する。
 - 頻拍性の心房細動時に心拍出量が増加する。
 - 左室流出路の圧較差はイソプロテレノール投与で低下する。
- 2 Creutzfeldt-Jakob 病で、変異型に特徴的なのはどれか。
- 孤発例より進行が早い。
 - 孤発例より高齢発症である。
 - 記憶力障害で発症することが多い。
 - MRI では基底核に異常信号がみられる。
 - 脳波では周期性同期性放電はみられない。
- 3 成人市中肺炎の重症度の判定に使用されている「A - DROP システム」で指標とされていないのはどれか。
- 意識レベル
 - 収縮期血圧
 - 尿素窒素 (UN)
 - C 反応性蛋白 (CRP)
 - 経皮的酸素飽和度 (SpO₂)
- 4 Wilson 病について正しいのはどれか。
- 若年発症はまれである。
 - 錐体外路症状がみられる。
 - 常染色体優性遺伝である。
 - 血清セルロプラスミンが増加する。
 - 銅を含む食品の摂取が推奨される。
- 5 *Chlamydia trachomatis* 感染症でみられない症状はどれか。
- 結膜炎
 - 筋炎
 - 卵管炎
 - 尿道炎
 - 子宮頸管炎

- 6 不妊症について正しいのはどれか。
- 多くは原発性である。
 - 不育症と同義である。
 - 約半数は機能性である。
 - 加齢に伴い、妊孕性は上昇する。
 - 男性不妊には顕微授精が有用である。
- 7 50 歳の女性。慢性 C 型肝炎と診断されている。肝生検組織所見を示す。認められるのはどれか。
- 風船様肝細胞
 - 肝実質の肉芽腫形成
 - 慢性非化膿性破壊性胆管炎
 - 小葉中心性に肝細胞周囲の線維化
 - リンパ球浸潤を伴うグリソン鞘の拡大



肝生検組織所見

- 8 心不全患者における脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) について正しいのはどれか。2 つ選べ。
- 心筋壁張力と有意に相関する。
 - 心不全の代償機序に関連しない。
 - 心不全の原因診断には適していない。
 - 慢性心不全患者の予後予測因子となり得ない。
 - 75 歳以上の高齢患者における心不全管理に有用である。

9 眼筋麻痺を生じないのはどれか。

- a 重症筋無力症
- b Horner 症候群
- c 進行性核上性麻痺
- d ミトコンドリア脳筋症
- e Guillain-Barre 症候群

10 多発性骨髄腫について、正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 骨髄内のみで増殖する。
- b 腫瘤を形成することはない。
- c 骨髄微小環境が骨髄腫細胞の増殖に重要である。
- d 血清中 $\beta 2$ ミクログロブリンは、病期と関連する。
- e 発症時から低 γ グロブリン血症を示すことはない。

11 肺性心の原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 肺血栓塞栓症
- b 心タンポナーデ
- c 僧帽弁閉鎖不全症
- d 甲状腺機能亢進症
- e 閉塞型睡眠時無呼吸症候群

12 副腎性クッシング症候群患者の血液検査で、低値を示すのはどれか。2つ選べ。

- a 好中球
- b 好酸球
- c ACTH
- d グルコース
- e コルチゾール

13 疾患と所見の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 関節リウマチ——皮下結節
- b 皮膚筋炎——血栓性静脈炎
- c Behçet 病 ——蝶形紅斑
- d Sjögren 症候群 ——う歯の多発
- e 大動脈炎症候群——指尖潰瘍

14 先天性横隔膜ヘルニアに関して正しいのはどれか。

- a 横隔膜欠損部位は、右側後外側が最も多い。
- b 出生前診断例は稀である。
- c 胎生期の胸膜裂孔閉鎖不全が原因と考えられる。
- d 肝臓が脱出することはない。
- e 生後早期の発症例は予後がよい。

15 無月経について正しいのはどれか。

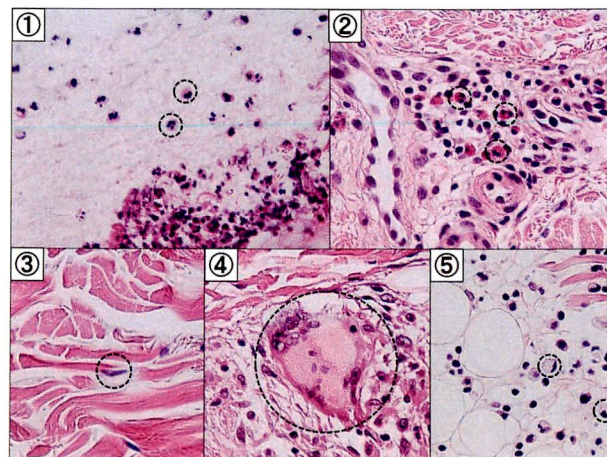
- a 多くは原発性である。
- b 卵巣性は低エストロゲン低ゴナドトロピンである。
- c 子宮性は高エストロゲン高ゴナドトロピンである。
- d 第一度の多くは視床下部性である。
- e 第二度にはクロミフェンが有効である。

16 尺骨神経麻痺に認められる症状として正しいのはどれか。

- a 鷲手
- b 下垂手
- c 間歇性跛行
- d drop arm sign 陽性
- e 母指、示指、中指のしびれ

17 皮膚組織のH-E染色標本を示す。薬疹に関与している細胞はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



H-E染色標本

18 喫煙が及ぼす尿路上皮細胞への影響で正しいのはどれか。

- a 非喫煙者では浸潤性乳頭状腫瘍が多い。
- b 喫煙者では尿路上皮に扁平上皮化をきたす。
- c 喫煙者では腎不全も発生するリスクが高くなる。
- d 喫煙者では早期より尿細胞診で異形細胞が認められる。
- e 喫煙者は非喫煙者より3.1倍の膀胱癌の発症リスクがある。

19 偽膜性腸炎について正しいのはどれか。

- a 若年者に好発する。
- b 右半結腸に好発する。
- c グラム陰性桿菌の増殖による。
- d 治療はステロイド薬の投与である。
- e 中毒性巨大結腸症を合併することがある。

20 恒久的ペースメーカー植込み術の適応となる疾患、病態はどれか。2つ選べ。

- a 先天性QT延長症候群
- b 心不全を呈した洞不全症候群
- c 自覚症状のない洞不全症候群
- d 自覚症状のない高度房室ブロック
- e 自覚症状のある2度房室ブロック

21 覚醒剤中毒でみられる身体所見として適当でないのはどれか。

- a 散瞳
- b 徐脈
- c 興奮
- d 血圧上昇
- e 発汗過多

22 悪性貧血の病態に関連する部位はどれか。2つ選べ。

- a 胃
- b 空腸
- c 回腸
- d 上行結腸
- e 十二指腸

23 アレルギー性気管支肺アスペルギルス症について正しいのはどれか。

- a 血痰、咯血をきたすことが多い。
- b 喘息様発作を繰り返すことが多い。
- c 副腎皮質ステロイド使用者に多い。
- d 陳旧性肺結核に続発することが多い。
- e 秋から冬にかけて発症することが多い。

24 偽性副甲状腺機能低下症にみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 短指症
- b 低リン血症
- c 高カルシウム血症
- d 大脳基底核の石灰化
- e 副甲状腺ホルモン低値

25 血清尿素窒素 98 mg/dl、血清クレアチニン値 9 mg/dlを伴う尿毒症患者に見られないのはどれか。2つ選べ。

- a 血中重炭酸 15 mEq/l
- b 血清リン 1.5 mg/dl
- c 末梢血ヘモグロビン 9 g/dl
- d 血清カリウム 6.0 mEq/l
- e 血清カルシウム 12.0 mg/dl

26 アレルギー性鼻炎の治療として誤っているのはどれか。

- a 減感作療法
- b β 刺激薬吸入
- c 抗ヒスタミン薬内服
- d 副腎皮質ステロイド点鼻
- e ロイコトリエン受容体拮抗薬内服

27 胃癌について誤っているのはどれか。

- a 肝転移は多発性のものが多い。
- b 早期胃癌ではIIc型が最も多い。
- c 粘膜下層癌は胃切除術の適応である。
- d 再発形式で最も多いのはリンパ節転移である。
- e 切除不能進行癌には抗癌化学療法が有効である。

28 正しいのはどれか。

- a Turner 症候群は性早熟症を合併する。
- b Klinefelter 症候群の核型は 47,XXY である。
- c Robertson 型転座保因者の染色体数は 45 本である。
- d 猫鳴き症候群は 5 番染色体長腕部分モノソミーが原因である。
- e 均衡型相互転座保因者女性の流産リスクは正常核型女性より低い。

29 41 週を超えて出生した児に起こりやすいのはどれか。

- a 溶血性貧血
- b 壊死性腸炎
- c 頭蓋内出血
- d 胎便吸引症候群
- e Wilson-Mikity 症候群

30 尿中トリクロロ酢酸測定検査により曝露評価ができる有機溶剤はどれか。2つ選べ。

- a トルエン
- b キシレン
- c ノルマルヘキサン
- d テトラクロロエチレン
- e 1,1,1-トリクロロエタン

31 頸椎後縦靱帯骨化症について正しいのはどれか。

- a 放射線治療が有効である。
- b 投薬により骨化が縮小する。
- c 膀胱・直腸障害は認めない。
- d 手術的治療の絶対適応である。
- e 転倒が懸念されれば安静が必要である。

32 小児に好発する脳腫瘍はどれか。

- a 髄膜腫
- b 髄芽腫
- c 下垂体腺腫
- d 神経膠芽腫
- e 悪性リンパ腫

33 縦隔腫瘍について正しいのはどれか。

- a 神経原性腫瘍は神経芽細胞腫が多い。
- b 縦隔内甲状腺腫は悪性のものが多い。
- c 奇形腫では角化物を有することが多い。
- d 心膜嚢腫はSLEを合併するものが多い。
- e Castleman 病は悪性リンパ腫の一種である。

34 電離放射線による障害で最も早く生じるのはどれか。

- a リンパ球減少
- b 皮膚炎
- c 白内障
- d 貧血
- e 不妊

35 Tourette 症候群が該当するのはどれか。

- a 吃音
- b 選択緘黙
- c 多動性障害
- d チック障害
- e 広汎性発達障害

36 疾患と症状の組合せで正しいのはどれか。

- a 脂腺母斑 ————— 血管線維腫
- b Bowen 病 ————— Leser-Trélat 徴候
- c 結節性硬化症 ————— Darier 徴候
- d Werner 症候群 ————— 早老症状
- e 硬化性萎縮性苔癬 ————— 基底細胞癌

37 副鼻腔単純CTにおいて、一側の上顎洞に充満する、骨破壊を伴わないが、洞内に石灰化を認める疾患の中で、最も考えられるのはどれか。

- a 鼻せつ
- b 上顎洞癌
- c 肥厚性鼻炎
- d 鼻中隔彎曲症
- e 副鼻腔真菌症

38 前立腺肥大症について誤っているのはどれか。

- a 排尿障害を生じる。
- b 蓄尿障害を生じる。
- c 尿閉の原因となる。
- d 前立腺癌の前癌病変である。
- e 治療には α 遮断薬を用いる。

39 増殖糖尿病網膜症の眼所見はどれか。2つ選べ。

- a 結膜下出血
- b 強膜炎
- c 虹彩ルベオーシス
- d 白内障
- e 硝子体出血

40 陳旧性心筋梗塞を合併した高齢の高血圧患者に対して用いる降圧薬として適切でないのはどれか。

- a 利尿薬
- b α 遮断薬
- c β 遮断薬
- d カルシウム拮抗薬
- e アンジオテンシンII受容体拮抗薬

41 舌小帯短縮をきたすのはどれか。

- a 強直性脊椎炎
- b 再発性多発軟骨炎
- c 全身性硬化症〈強皮症〉
- d 全身性エリテマトーデス〈SLE〉
- e 皮膚筋炎

42 正しい組合せはどれか。

- a Turner 症候群 ————— 続発性無月経
- b Klinefelter 症候群 ————— 低身長
- c Kallmann 症候群 ————— 嗅覚障害
- d Prader-Willi 症候群 ————— 多指症
- e Laurence-Moon-Biedl 症候群 ————— 思春期早発症

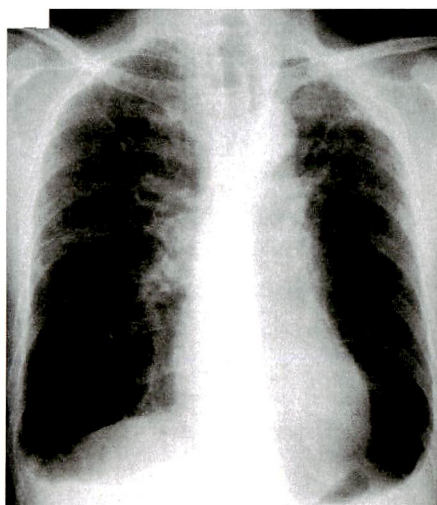
43 過敏性肺炎について正しいのはどれか。

- a 閉塞性換気障害をきたす。
- b 高率に肺癌を合併しやすい。
- c I 型アレルギー反応に基づく。
- d 末梢血の好酸球数は正常である。
- e ステロイドに対する反応性が不良である。

- 44 65歳の男性。50歳頃から労作時息切れを自覚するようになる。55歳頃から階段昇降時に呼吸困難が強くなり、60歳頃からは平地を自分のペースなら1.6 kmは何とか歩けるほどまで体力が落ちている。体重も最近5 kgほど減少してきている。胸部エックス線写真を示す。喫煙は家庭医からはずっと禁煙を指導されているが、20歳から20本/日を止められずに続けている。

間違っているのはどれか。

- a 1秒率 ($FEV_{10}\%$) が低下する。
- b 残気率 (RV/TLC) は高値である。
- c 肺拡散能 (DL_{CO}) は高値である。
- d 静肺コンプライアンスは増加する。
- e 努力肺活量 (FVC) は肺活量 (VC) より少ない。



胸部エックス線写真

- 45 48歳の女性。検診のマンモグラフィーで異常を指摘され来院した。触診上は明らかな所見を認めず、乳腺超音波でも乳腺症以外の所見はみられなかった。マンモグラフィーの読影ではカテゴリ-3であった。

次のマンモグラフィーの所見の組合せで、カテゴリ-3にあたるものはどれか。

- a 淡い石灰化———集簇性分布
- b 分枝状石灰化———領域性分布
- c 微細線状石灰化———線状分布
- d 微小円形石灰化———びまん性分布
- e 多形性不均一石灰化———区域性分布

- 46 7歳黒色人種の女児。最大長径が1.5cm大の色素斑10個と腋窩の色素沈着を主訴に受診した。皮膚所見と虹彩所見を示す。

この患者の診断はどれか。

- a 結節性硬化症
- b Von Hippel-Lindau病
- c 神経線維腫症
- d Sturge-Weber症候群
- e 神経皮膚黒色症



皮膚所見



虹彩所見

47 56歳の女性。生来健康。最近、朝の家庭血圧測定値が高く、持続しているために来院した。日常生活は支障なく過ごせており、胸部症状もない。

家族歴：特記すべきことなし。生活歴：飲酒なし、喫煙なし。

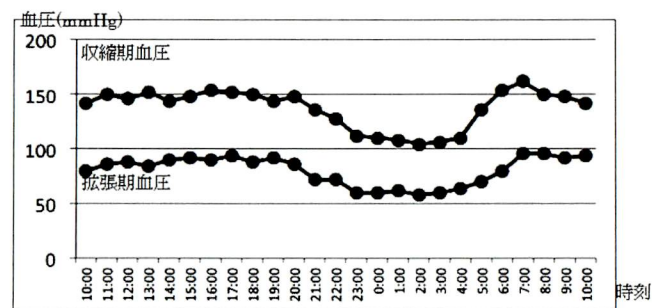
現症：身長 159cm、体重 50Kg、血圧 150/94mmHg、脈拍 72/分、整。

意識清明、心音に異常なし、呼吸音に異常なし。腹部に血管雑音なし。

24時間自由行動下血圧測定（ABPM）の結果を示す。ただし、午前1時30分から6時まで睡眠中である。

正しいのはどれか。

- a 仮面高血圧症である。
- b 早朝高血圧は示されていない。
- c Non-Dippers型の高血圧である。
- d モーニングサージは示されていない。
- e 心血管病発症リスクの高いタイプである。

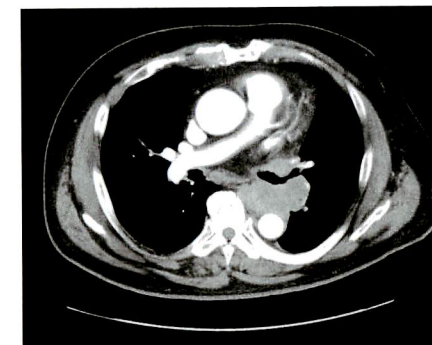


24時間自由行動下血圧測定（ABPM）の結果

48 65歳の男性。血痰を主訴に当院を受診。胸部エックス線写真で異常陰影を認め、胸部造影CTを施行した。胸部造影CTでは写真に示した腫瘤影以外に肺野に異常陰影は認めなかった。理学所見では両側鎖骨上窩リンパ節腫大を認め、同リンパ節針吸引細胞診でclass V 小細胞肺癌と診断された。その他、全身検索で遠隔転移は認めなかった。自覚症状は血痰のみで、日常生活に支障はなく、既往歴に特記事項はない。血液検査所見は、白血球数 6,500（好中球 65%）、Hb 14.5 mg/dl、血小板 15万、総ビリルビン 0.7 mg/dl、GOT 30 IU/l、GPT 35 IU/l、LDH 480 IU/l、尿素窒素 12 mg/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl。

第一選択となる治療法はどれか。

- a 手術療法
- b 放射線療法単独
- c ゲフィチニブ投与
- d 化学放射線同時併用療法
- e 緩和治療単独



胸部造影CT

- 49 65歳の男性。10年来、糖尿病で外来通院中であつたがHbA1c値の急な悪化を認めたため腹部CTを行った。腹部造影CT検査とERBD後の写真を示す。腹部は平坦で圧痛はなく腫瘍は触知しない。ERBD前の血液検査結果を示す。

血液所見：赤血球 371 万、Hb 11.9 g/dl、白血球 7,200、血小板 23.0 万。血液生化学所見：総ビリルビン 2.8 mg/dl、AST 435 単位、ALT 540 単位、空腹時血糖 245 mg/dl、アミラーゼ 80 単位、HbA1c 11.4 % (基準 5.8 以下)、CA19-9 890 単位 (基準 37 以下)、Span-1 65.0 U/ml (基準 30 以下)。

適切な治療方法はどれか。

- a 瘻空腸吻合術
- b 瘻体尾部切除術
- c 乳頭括約筋形成術
- d 瘻頭十二指腸切除術
- e 十二指腸温存瘻頭切除術



腹部造影CT検査



ERBD後の写真

- 50 生後1か月の乳児。痙攣と意識障害のため救急車で搬送された。在胎40週、出生体重3,160 g、正常分娩で出生、Apgarスコア8点(1分)、10点(5分)。完全母乳栄養児。本日の朝から不機嫌であり哺乳中に全身の強直性の痙攣を認めた。体重4,280 g、体温37.1℃、頭部や体幹に外傷を認めない。

血液所見：赤血球 360 万、Hb 8.9g/dl、血小板 20 万、プロトロンビン時間 30 秒 (基準 10~14)、活性化部分トロンボプラスチン時間 60 秒 (基準 32)。

頭部CTで頭蓋内出血を認めた。

まず投与するのはどれか。

- a サーフアクトアント
- b ビタミンK
- c 副腎皮質ステロイド
- d 血小板
- e 抗生剤

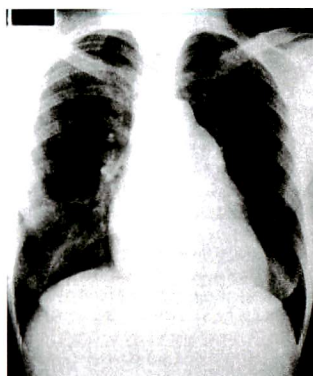
- 51 30歳の男性。中学生の頃から授業中によく眠るようになり、教師から注意される事が多かった。高校へ入ったが一日中眠気が強く、数分間居眠りをすると少しは目覚めた感じがしてスッキリするのだがすぐにまた眠くなり、勉強が手につかないため中退し、大工の家業手伝いをしている。仕事中に眠気のために足場から転落したところで目が覚め、「戦車みたいな物にぶつけられた夢をたった今見ていた」と言う事があった。明け方に目覚めても体が動かず、人影が布団の上を通過してその重みを感じる事がたまにある。

診断確定のために重要な検査はどれか。

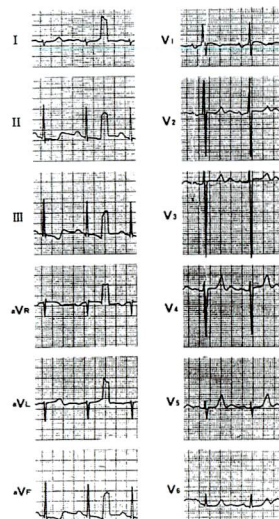
- a ポリグラフィ
- b サーモグラフィー
- c パルスオキシメトリ
- d オルファクトメトリ
- e ウィスコンシンカードソーティングテスト

- 52 55歳の女性。息切れを主訴に来院した。40歳時から心拡大と不整脈を指摘されていた。数年前から階段を昇るときに息切れを自覚するようになり次第に増悪した。胸部エックス線写真と心電図を示す。

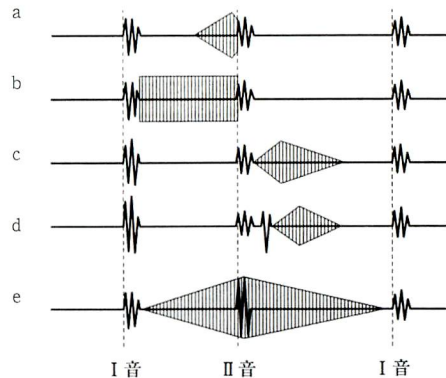
心臓の聴診所見はどれか。



胸部エックス線写真



心電図



I 音 II 音 I 音

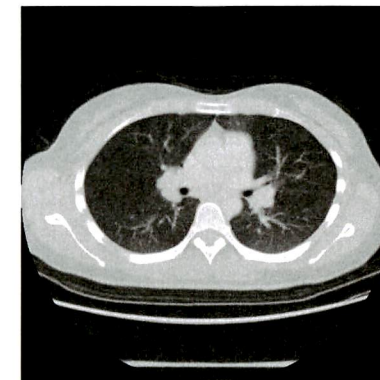
- 53 30歳の女性。職場の健康診断で胸部エックス線写真の異常を指摘され来院した。最近、目のかすみを自覚している。喫煙歴はない。胸部造影CT写真を示す。

この疾患の診断に有用な検査項目はどれか。

- a リンパ球刺激試験
- b インターフェロン γ 試験
- c NSE <neuron-specific enolase>
- d ACE <angiotensin-converting enzyme>
- e ANCA <anti-neutrophil cytoplasmic antibody>



胸部CT写真



胸部CT写真

- 54 28歳の女性。経口避妊薬を内服している。5日前より臍の周囲に痛みが起り、2日前より嘔吐が出現した。今朝より下肢に力が入らないため来院した。両下肢に末梢優位の筋力低下と知覚過敏を認める。腱反射は減弱し、Babinski反射は陰性である。

診断上、最も有用な検査項目はどれか。

- a 脳脊髄液蛋白
- b 血清カリウム
- c 血清ビタミンB₆
- d 尿ボルフォビリノーゲン
- e 抗アセチルコリン受容体抗体

55 33歳の男性。肉眼的血尿を認め来院した。2週前に38℃の発熱と咽頭痛が出現し、5日後に症状は軽快した。2日前より眼瞼浮腫に気づき、尿に行く回数が減った。脈拍 80/分、整。血圧 148/95 mmHg。眼瞼結膜貧血なし。胸部聴診上異常なし。眼瞼と両下腿に浮腫を認める。

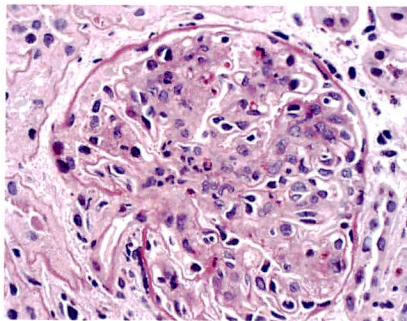
尿所見：蛋白+、糖(-)、潜血3+、沈渣に赤血球 50~100/1 視野、顆粒円柱、赤血球円柱を見る。

血液生化学所見：アルブミン 3.5 g/dl、尿素窒素 28 mg/dl、クレアチニン 1.5 mg/dl。

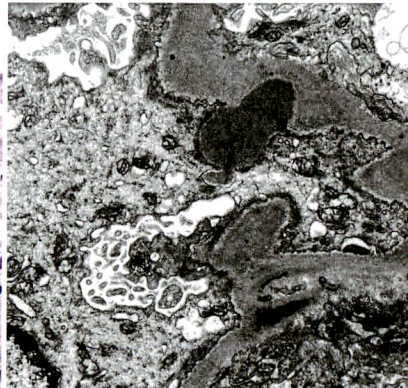
腎生検PAS染色標本と、電子顕微鏡標本を示す。

正しいのはどれか。

- a 再発がみられる。
- b 腎機能の予後は良好である。
- c 血清中の補体価は上昇する。
- d 副腎皮質ステロイド薬を用いる。
- e 抗好中球細胞質抗体が陽性となる。



腎生検PAS染色標本

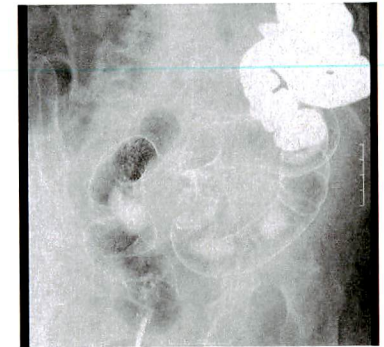


電子顕微鏡標本

56 56歳の男性。2週間前より便秘が出現したため来院した。赤血球 360 万、Hb 11.5 g/dl、白血球 5,300。血清生化学所見：総蛋白 6.9 g/dl、アルブミン 3.5 g/dl、CEA 10 ng/ml (正常 5 以下)、注腸造影写真を示す。

最も適切な術式はどれか。

- a 回盲部切除術
- b 結腸右半切除術
- c 結腸左半切除術
- d 横行結腸切除術
- e S状結腸切除術



注腸造影写真

57 4歳の男児。白血病と診断され治療中である。1か月前に敗血症となり、抗菌薬の投与で治癒した。2週間前より右季肋下の痛みがあり、1週間前から38℃前後の発熱が持続している。右上腹部はやや膨隆し、肝を4 cm 触知し圧痛がある。黄疸は認めない。AST 30 (基準 40 以下)、ALT 25 (基準 35 以下)であった。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 急性肝炎
- b 胆管炎
- c 肝膿瘍
- d 総胆管囊腫
- e 肝芽種

58 30歳の女性。多嚢胞性卵巣症候群による排卵障害に対し、hMG-hCGによる排卵誘発治療後、嘔気、腹部膨満感、呼吸困難を訴えて来院した。

まず行うべき検査はどれか。

- a CT
- b MRI
- c 腹腔鏡
- d 超音波断層法
- e 腹部エックス線撮影

- 59 42歳の男性。自動車運転中に対向車と衝突し搬入された。意識は清明。呼吸数20/分。脈拍126/分。血圧86/68 mmHg。前胸部に打撲痕あり自発痛を訴えていた。心臓超音波画像を示す。

処置として正しいのはどれか。

- a 大量輸血
- b 心嚢穿刺
- c 陽圧補助換気
- d 胸腔ドレナージ
- e 中心静脈カテーテル挿入



心臓超音波画像

- 60 18歳の男子。高校に入学して間もなく、担任の教師に叱責されたことをきっかけに学校を休みがちになった。家族や教師の説得にも応じず、1年後には不登校となり、自室にこもりがちの生活を送るようになった。次第に家族の前で食事をしなくなり、母親が作った食事を運んで自室で食べるようになった。最近「食事に毒を入れられている」「監視されていて外にでられない」と訴えるようになり、食事水分のみとなり体重も減少した。

診断はどれか。

- a 不登校
- b 摂食障害
- c 統合失調症
- d 妄想性障害
- e 境界性パーソナリティ障害

- 61 40歳の女性。前胸部の皮疹を主訴に来院。皮疹は2年前より夏季になると出現し冬季には軽快するという。皮疹の表面をメスでこすると多量の枇糠様落屑がみられた。皮膚の写真を示す。

適切な外用薬はどれか。

- a 抗真菌薬
- b 抗ウイルス薬
- c 抗ヒスタミン薬
- d 活性型ビタミンD3薬
- e 副腎皮質ステロイド薬

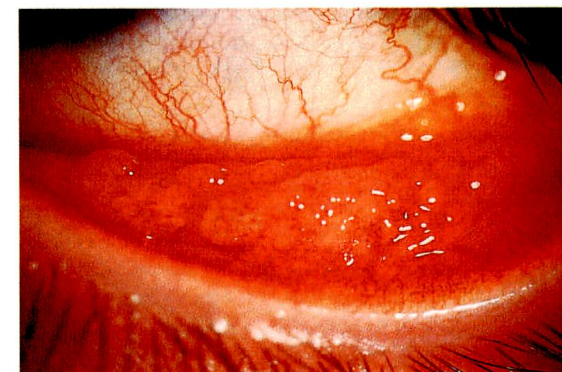


皮膚の写真

- 62 29歳の男性。2日前から両眼の流涙、羞明および異物感を自覚して来院した。左眼の眼瞼の写真を示す。

診断はどれか。

- a 結膜結石
- b 春季カタル
- c 流行性角結膜炎
- d 真菌性結膜炎
- e クラミジア結膜炎



左眼の眼瞼の写真

63 60歳の女性。30歳時に輸血を受けた。50歳時に肝機能障害とHCV抗体陽性を指摘された。そのまま放置していたがC型慢性肝炎の自然史を紹介した新聞記事を見て心配になり来院した。血液学所見：Hb 13.2 g/dl、白血球 3,400、血小板 5万、プロトロンビン時間 70 % (基準 80~120)。血清生化学所見：総蛋白 6.8 g/dl、アルブミン 3.5 g/dl、IgG 1,600 mg/dl (基準 960~1,960)、総ビリルビン 0.7 mg/dl、AST 60 単位、ALT 65 単位、ALP 210 単位 (基準 260 以下)、 γ -GTP 40 単位 (基準 8~50)。免疫学所見：HBs抗原陰性、HCV-RNA 5.0 Log IU/ml (基準 1.2 未満)、AFP 15 ng/ml (基準 20 以下)。

最初に行うべき検査はどれか。

- a 肝生検
- b ICG 試験
- c 腹部超音波
- d 抗平滑筋抗体
- e HCV 遺伝子型

64 73歳の男性。糖尿病で近医へ通院中。1か月前に入浴中に意識消失発作を起こしたことがあったが、一過性であったため放置していた。数日前より動悸を自覚し、改善しないため来院した。来院時の12誘導心電図を示す。

正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 電氣的除細動は発作の停止に有効である。
- b 血栓症予防のため、抗凝固療法が必要である。
- c ベラパミルの静注は発作の停止に有効である。
- d 高周波カテテルアブレーションの成功率は高い。
- e アデノシン三リン酸 (ATP) の静注は発作の停止に有効である。



12誘導心電図

65 40歳の男性。半年前から徐々に筋力低下が増強し、最近ではペットボトルをあけることが困難になったため受診した。歩行に問題はない。診察所見では下部顔面筋の軽度筋力低下、上肢遠位に優位の筋萎縮、筋力低下を認めた。針筋電図では急降下爆撃音が観察された。

本疾患でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 心電図異常
- b 内分泌障害
- c 末梢神経障害
- d 免疫グロブリン高値
- e 常染色体劣性遺伝

66 35歳の女性。急性骨髄性白血病（FAB分類上、M2）と診断され、シタラビン/イダルビシンを用いた寛解導入療法により完全寛解を得た。治療前の骨髄細胞の染色体分析では46,XXと正常核型であった。白血球数、芽球のミエロペルオキシダーゼ陽性率、Performance status も合わせて検討した結果、標準リスク例と診断された。

今後の治療方針に関して正しいのはどれか。

- a 地固め療法としてシタラビン大量療法が著効する。
- b 現段階で自家幹細胞移植術の絶対的適応がある。
- c 予後が極めて良好なため、地固め療法は必要ない。
- d 地固め療法後、最低1年間は強化・維持療法を継続する。
- e 同胞よりHLAが完全一致したドナーが見つければ、同種幹細胞移植術を行う。

67 48歳の男性。日中の眠気を主訴に受診。日中居眠りが多く、大切な会議の最中でも眠ってしまう。また、十分に睡眠時間をとっても体がだるい。家族から最近いびきがひどくなり、時々息が止まっていることもあるといわれている。体重は年々増加しており、この1年間でも6kg体重が増えている。飲酒歴：ビール 1,400 ml/日、約20年間。身長170 cm、体重98 kg。脈拍78/分、整。血圧146/96 mmHg。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 睡眠導入薬を処方する。
- b 体重を減らすように指導する。
- c ポリソムノグラフィーを行なう。
- d ビールを他の酒類に変えるように指導する。
- e 夜間睡眠時に経鼻的持続陽圧換気療法を行なう。

68 74歳の女性。朝、ベッドに座りながらうわ言を発しているところを家人に発見され救急車で来院した。数年前より高血圧および糖尿病にて内服加療中であった。昨夜は食欲がなく、夕食を取らずに就寝した。意識は傾眠。体温 35.8℃。呼吸数 16 回。脈拍 110/分、整。血圧 168/70 mmHg。SpO₂ 97% (room air)。四肢は冷たく湿潤、明らかな麻痺はない。

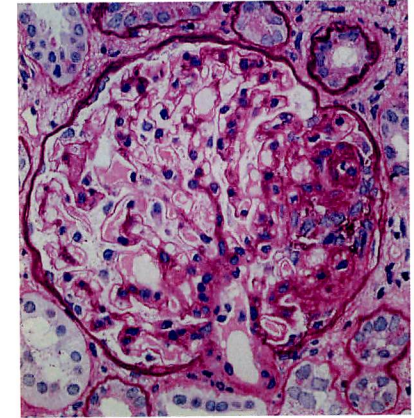
血液検査の結果が出るまでに投与する薬剤で、以下のうち最も適切なのはどれか。

- a ヘパリン
- b β遮断薬
- c ブドウ糖液
- d インスリン
- e カテコラミン

69 37歳の男性。下肢の浮腫を主訴に来院。半年前の健診にて尿蛋白を初めて指摘され、3週間前より両下肢のむくみを認めるようになった。来院時、血圧138/85 mmHg、脈拍82/分。眼瞼浮腫あり。肺野清。心雑音なし。肝脾を触知せず。両下腿に浮腫あり。尿所見：蛋白3+、蛋白定量3.8 g/日、潜血+。血液生化学所見：総蛋白4.4 g/dl、アルブミン2.1 g/dl、総コレステロール378 mg/dl、尿素窒素28 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl。腎生検PAS染色標本(400倍)を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a ASOが高値を示す。
- b 肉眼的血尿を呈する。
- c 尿蛋白の選択性は不良である。
- d 持続性の低補体血症がみられる。
- e ステロイドの反応性は良好である。



糸球体病変

70 37歳の男性。首から両肩にかけてのこわばりを主訴に来院した。約10年前から腰背部や臀部の疼痛が繰り返し出現したが、市販の鎮痛薬で症状はおさまっていた。2年前より首の動きにくさを自覚し、最近では首の前屈がほとんどできなくなった。CRP 0.8 mg/dl。赤沈 36 mm/1時間（基準10mm以下）。頸椎エックス線写真を示す。

この疾患で認められるのはどれか。

- a HLA-A24
- b HLA-B27
- c HLA-B51
- d HLA-B54
- e HLA-DR4



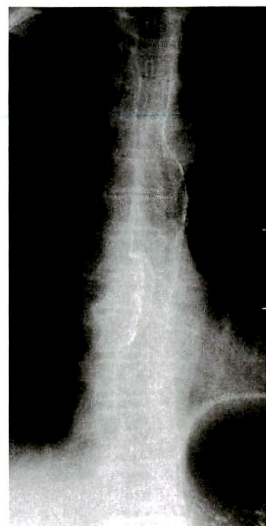
頸椎エックス線写真

71 68歳の男性。嚥下困難と5kgの体重減少を主訴に来院した。入院時の食道エックス線を示す。

根治手術が予定された。

この患者で正しいのはどれか。

- a リンパ節郭清は行わない。
- b 手術は左開胸で行われる。
- c 気管膜様部への浸潤が考えられる。
- d 術後合併症として反回神経麻痺がおこりやすい。
- e 切除後の再建臓器として小腸が用いられることが多い。



食道エックス線

72 7歳の男児。学校で“体をビクつかせる”同じ動作を繰り返すことを指摘された。教師は最近児に汚言が目立ち、周囲の子供達とのいさかいが絶えないとのことであった。

本児でみられる他の症状はどれか。

- a 単純部分発作
- b 一過性意識障害
- c 痙性四肢麻痺
- d 音声チック
- e 知的障害

73 32歳の1経妊0経産婦。妊娠経過中、血圧は安定し、尿蛋白も認めていなかった。40週5日、陣痛発来し、入院後、図に示す状態で、胎児心拍数モニタリングをおこなっていた。突然、顔面蒼白になり嘔気を訴えた。胎児心拍数基線は110 bpm、基線細変動が減少し、一過性頻脈や一過性徐脈を認めていない。

次に行うのはどれか。2つ選べ。

- a 体位変換
- b 輸血の準備
- c 血圧の測定
- d 人工羊水注入
- e 帝王切開の準備



図

74 20歳の男性。造船所の作業員。長時間密閉されていた船倉に作業のため入ったところ、ハシゴからずり落ち墜落した。

直ちに現場に急行した産業医の対応として誤っているのはどれか。

- a 火気の使用を厳禁する。
- b 二酸化炭素濃度の測定を指示する。
- c 船倉内に許可なく入らぬよう指示する。
- d 送風機による船倉内の換気を行わせる。
- e 救出作業者に空気タンクの使用を指示する。

75 生後1週間の新生児。写真のような顔貌の特徴を認め紹介された。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 緊急手術が必要である。
- b 呼吸管理が必要である。
- c 口腔内診察が必要である。
- d 常染色体性優性遺伝である。
- e およそ500の出生に対して1人の割合で認める。



顔貌の写真

76 75歳の男性。生来健康であるが、10年前からの腰痛と会陰部のしびれを主訴に来院した。最近では50m歩行すると会陰部にしびれが増し、さらに歩行を続けると尿意を催すようになっている。しかし、5分座っていると症状は軽減し、消失することもあるという。

診断に最も有用なのはどれか。

- a 立位全下肢エックス線写真
- b 腰部単純エックス線写真
- c 全身骨シンチグラフィー
- d 腰部MRI
- e 筋電図

77 60歳の男性。交通外傷にて救命救急センターに搬送された。右胸部の疼痛と呼吸苦を訴えていた。触診上肋骨の動揺が認められ、また吸気時の胸郭の陥没が認められた。SpO₂ 87% (Room Air)、血圧128/60 mmHg、脈拍100/分であった。

考えられるのはどれか。

- a 血 胸
- b 気管断裂
- c 開放性気胸
- d 緊張性気胸
- e フレイルチェスト

78 43歳の男性。数日前から続く頭痛、嘔気、発熱を主訴に来院した。意識は清明。体温38.5℃。脈拍80/分、整。血圧154/64 mmHg。項部硬直を軽度認め、右指鼻試験がやや拙劣である以外、異常を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球445万、Hb 14.4 g/dl、Hct 40.5%、白血球16,800、血小板33万。血液生化学所見：総蛋白5.9 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、尿素窒素12 mg/dl、クレアチン0.7 mg/dl、総ビリルビン0.9 mg/dl、AST 31単位、ALT 40単位、CRP 3.13 mg/dl。心電図と胸部エックス線写真に異常を認めない。頭部造影MRIを示す。

必要な検査はどれか。

- a 脳 波
- b 心臓超音波検査
- c 脳血管造影検査
- d 心カテーテル検査
- e 脳血流シングルフォトンエミッションCT (SPECT) 検査



頭部造影MRI

79 36歳の男性。右利き。16歳時脳動静脈奇形による脳内出血を起こし、脳神経外科に入院し、開頭血腫除去術を実施された。術後リハビリを実施し、退院。高校は2年留年して卒業。2年間の浪人生活を経て22歳で大学入学。26歳で大学を卒業して契約社員として鉄道関係の仕事に就いた。35歳時に職場の上司とうまくコミュニケーションがとれないため退職。些細なことにいらいらしたり、気分が落ち込んだりするため、自ら精神科を初診した。

初診時、Vital signには異常を認めなかった。頭部CT画像を示す。

この患者に認められる可能性のある症状を2つ選べ。

- a 失語症
- b 人格変化
- c 知能低下
- d 左同名半盲
- e 左手の感覚障害



頭部CT

80 12歳の女兒。生下時より右下眼瞼に色素斑があり、成長とともに濃くなったため来院した。右下眼瞼の写真を示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 放射線療法
- b PUVA療法
- c 冷凍凝固療法
- d 炭酸ガスレーザー
- e Qスイッチルビーレーザー



右下眼瞼の写真

81 29歳の男性。2日前から急激に増強する嚥下痛と開口障害とを主訴に来院した。1週間前から咽頭痛と右耳痛を自覚していた。右口蓋弓は膨隆し、口蓋垂は左側へ偏位している。耳内に異常所見を認めない。頸部触診上異常はなく、吸気性喘鳴は聴取しない。

現症：体温 38.5℃。血液所見：白血球 13,800。免疫学所見：CRP 8.7 mg/dL。

適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬
- b 鼓膜切開
- c 放射線治療
- d 咽頭切開排膿
- e 抗癌化学療法

82 65歳の女性。左の視力低下を主訴に来院した。2か月前から眼痛があった。視力は右 1.0 (矯正不能)、左 0.2 (矯正不能)。眼圧は右 15 mmHg、左 38 mmHg。

左眼の充血を認める。左眼に隅角の新生血管と著明な虹彩ルベオシスを認める。

左眼の眼圧上昇の原因となり得るのはどれか。

- a 翼状片
- b 角膜ジストロフィー
- c 網膜中心静脈閉塞症
- d 視神経炎
- e 動眼神経麻痺

83 14歳の女子。るいそうを主訴に来院した。中学校では成績も良く体操部で頑張っていた。部の顧問が中学1年の秋に同級生の部員にもっとやせるように指導しているのを聞き、自分もやせようと思いダイエットを始めた。中学2年の秋には、身長 158 cm、体重 32 kgになった。気晴らし食いや自己誘発性の嘔吐は認めない。

病態として最も可能性が低いのはどれか。

- a 母親との葛藤
- b 友人関係の悩み
- c 成熟することへの拒否
- d 性同一性に関する葛藤
- e ボディイメージの歪み

84 17歳の男子。バイクの単独事故。胸部を強く打ちショック状態で搬入された。来院時のFAST(心エコー)所見を示す。

この症例の所見として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 頸静脈虚脱
- b 静脈還流低下
- c 呼吸音の低下
- d 中心静脈圧上昇
- e 出血性ショック



FAST所見

85 2歳の男児。歩行中転倒しそうになり、母親が右手を強く引っ張り上げたところ、急に泣き出し、以後、全く右上肢を動かさなくなった。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 肘内障
- b 肘関節脱臼
- c 手関節脱臼
- d 腕神経叢麻痺
- e 上腕骨顆上骨折